

第 2 回飯能市地域公共交通対策協議会 議事録の概要（経過）・決定事項

（1）本協議会の第 2 回目の開催にあたり、事務局長から開会が宣せられたのち、以下のとおり報告等をした。

- ①欠席委員、委員変更等の報告：事務局長から報告をした。
- ②自己紹介：変更委員各自による自己紹介をした。
- ③会長挨拶：会長（上副市長）から開会に際し、挨拶をした。

（2）前回会議と分科会の議事確認について

事務局から、前回会議と分科会の議事確認について、以下の資料に基づき説明した。

- ①第 1 回飯能市地域公共交通対策協議会 議事録の概要（経過）・決定事項（資料 1）
 - ②第 1 回飯能市地域公共交通対策協議会分科会 議事録の概要（経過）（資料 2）
- 各委員からは、特にご質問・ご意見等はなかった。

（3）事業報告・事業計画について

事務局から、事業報告・事業計画について、以下の資料に基づき説明した。

- ①飯能市地域公共交通基本計画実施計画実績状況（平成 26 年度～28 年度）及び今後の方向性（資料 3）
 - ②平成 29 年度事業計画について（資料 4）
- 各委員からは、特にご質問・ご意見等はなく、内容について了承された。

（4）調査の実施について

事務局から、調査の実施について、以下の資料に基づき説明した。

- ①地域公共交通網形成計画策定の流れと調査の詳細（資料 5）
- ②アンケート調査の追加調査項目（案）について（資料 6）

内容的には基本的に了承されたが、委員等から以下のとおりご質問・ご意見等があった。

・資料 5 の 4 の、現状把握及び課題整理を踏まえた対応策の検討のなかに「他地域の参考になり得る先進事例を広く収集・調査」とあるが、飯能市と似たような市はそれ程ないため、ほぼ意味をなさないのでは、この協議会のなかで市として何ができるのかきちんと考えないといけない。

・網形成計画の計画期間は基本 5 年なので、国際興業(株)との協定が平成 32 年 3 月 31 日までのため、少なくとも 3 年間はきちんと維持できるようなネットワーク網の構築を目指していかないといけない。

・高校生の通学定期の補助件数を見ても年々減少しているのでは、生活交通においてどのようにしたら利用されるのか工夫も必要

・間野黒指線、中藤・中沢線、小沢から湯の沢までの区間については、利用状況が悪いた

め、どうやったら守っていけるのか考えないといけない。

- ・いくつかのシナリオを用意してどれが一番合理的なのか考えることが必要
- ・他の自治体では上手くいっていることが、飯能市の場合はその条件に当てはまらない可能性もある。また、今のやり方が一番合理的なのかもしれないということもある。
- ・どういう形になればネットワークが維持できるのか、シミュレートをきちんと行わないと今後に上手くつながって行かず、平成35年3月までの計画期間まで最低限維持できない。
- ・市内の拠点配置を考慮した交通拠点の設置については、他の自治体が行っているような乗り継ぎポイントをつくることは少し成り立ちにくい地域ではないか。
- ・今のネットワークが基本的に飯能駅を起点とし、できるだけ最短距離で運行しているので朝晩はよいかもしれないが、昼間の需要に答えられていないため、駅だけでなく、どこを整理すれば路線バスを利用するのか意識的に調査する必要がある。
- ・資料6のQ10の選択肢については、誰がやるのかという主体がなく、政策にどう生かすのか少し見えにくいですが、技術的な課題のため、コンサルタントが決定した後、いろいろ議論して決定していく。

(5) その他

事務局から、今後のスケジュールについて、以下の資料に基づき説明した。

○飯能市地域公共交通対策協議会開催スケジュール（案）（資料7）

各委員からの質問なし。また、公共交通利用に関する意見交換を行い、各委員から以下のとおりご意見等があった。

- ・第2次はんのうふくしの森プラン推進市民会議から、今後、飯能市の公共交通を考える際の原則となるようなものの提言あり。
- ・今後については、今ある既存の鉄道、バス路線を維持することや地域の交通を公と民に分け、それぞれの役割を明確にすることなどが必要である。
- ・今後、過去の市町村別の運転免許証自主返納者の数値について情報提供したいと考えているが、飯能市の場合、各地域の公共交通事情から、運転免許証自主返納者に対する支援施策を考えるのは難しい。
- ・公共交通の現状をみんなに知ってもらうために、公共交通のあり方を考える、出前講座を開催した。
- ・出前講座の参加者のうち約半分の方が運転免許証を所持しているが、運転免許証の返納を考えている人は誰もいなかった。
- ・公共交通の利用を促されるが、鉄道駅までの移動手段等の関係で高齢者の方の鉄道利用は難しい。
- ・横瀬町では、高齢者の方を助ける、無料バスが定期的に走っているので、高齢者の方にとって有意義なものとなっているという話を聞いた。
- ・昔は路線バスがあったのでできれば路線バスを復活してほしいが、代替案としてはスク

ールバスへの混乗ができればよいと考えている。

- ・「たすけあいがの」で買い物ツアーを実施しているが、地域によっては駅までの輸送手段として使えないかという意見もある。

- ・お出かけの際、地域が東西に長いため、精明地区の住民は飯能駅のほうには行かず、隣の日高市、狭山市、入間市のほうへ行く傾向がある。

- ・地域で路線バスを守る施策として名栗地区で開催されるイベント等のリーフレットを配布させていただいた。時間がある方は、路線バスを利用してお越しいただければ幸いです。